

なんたん 社協だより

第40号
2019. 3



目 次

南丹市の福祉を平成と共に振り返る

～地域住民の方へインタビューをしました～ 2～5

赤い羽根共同募金は地域福祉やボランティア活動を応援しています 6～7

命を守る、あんしんあんぜんを守る～防火訪問で地域の見守りを～ 8



南丹市社協マスコット
「ニヤンたん」



南丹市の福祉を平成と共に振り返る

地域住民の方へインタビューをしました

平成も残すところあと1ヶ月となりました。そして、本誌も今回が平成最後の号となります。そこで今回は、地域住民の方へのインタビューも交えながら、南丹市の福祉について振り返ります。前半は「これまでの南丹市」、後半は「これからの南丹市」の二部にまとめました。私たちと一緒に南丹市の福祉について考えていただけると嬉しいです。

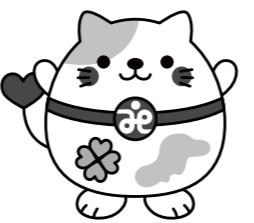


「ふれあい委員」制度で地域の見守りを



▲ふれあい委員活動の様子

皆さんは「ふれあい委員」さんをご存知ですか？ふれあい委員は、各地域にいる見守り役です。民生児童委員と連携しながら、地域の高齢者などの家を定期的に訪問し、気になることがあれば市役所や社協へつないでいただきます。平成22年から始まり、今年で9年目を迎えます。



Interview



ふれあい委員

ふれあい委員を始めて4年になります。ふれあい委員になって、以前より近所の人のことを気にするようになりました。今ではふれあい委員としての自覚と責任感がついてきて、一人暮らしの高齢の方に対し定期的に家を訪れたりするようにしています。ふれあい委員になっていなかつたら、地域のことを気にしているなあつたと思います。

ふれあい・いきいきサロンが129カ所になりました

「ふれあい・いきいきサロン」とは、地域の集いの場です。地域住民の方々が運営をし、体操やカラオケ、手芸など地域の実情に合わせて楽しく活動されています。平成7年ごろから始まったふれあい・いきいきサロンも今では129カ所にまで増えました。

Interview



自身、仕事をしているうちはサロンの大切さをあまり気に留めていませんでしたが、今はやりがいを感じ、毎回サロン参加者に楽しんでもらいたいという気持ちが大きいです。



私たちの地域は過疎化しており、サロンがとても貴重な交流の場となっています。サロンに参加しておしゃべりをして情報交換をする、といった場が他に見当たらぬので、もしサロン自体がなくなったらとても寂しいです。



▲佐々江いきいきサロン（日吉町）の様子



▲南丹市内のサロンをまとめたマップを作成しました（これは一例です）。詳しくは南丹市社協窓口またはホームページをご覧ください。

南丹市のボランティアは1,200人以上

南丹市の福祉を考える上で、忘れてはならないのはボランティアの皆さんです。南丹市社協に登録されているボランティアの数は1,200人を超え、地域のさまざまな場面で活躍されています。「自分の特技を地域の役に立てたい」「地域でやりたいことがある」という方は、ぜひ南丹市社協へご相談ください。



▲ボランティアグループ「フレージーモンキーズ」による活動の様子



▲南丹市内のボランティア情報をまとめた冊子を作成しました。詳しくは南丹市社協窓口またはホームページをご覧ください。

Interview



ボランティア

子育てに関するボランティアをしています。準備などで大変なときもありますが、集まり当日になると、若い人たちのパワーをもらって、ボランティア全員が若返るのを感じています。

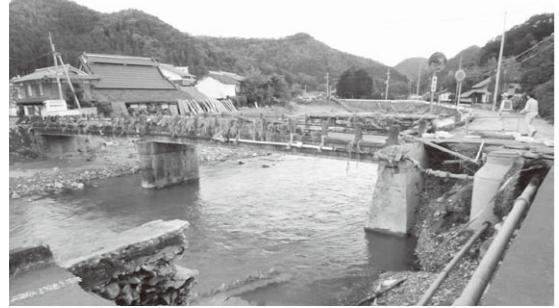


ボランティア

ボランティアは決して構えて活動するものではなく自分が楽しむのが出発点だと思います。楽しみながらスキルなどを身に付けていき、結果的に人の役に立っている…それがボランティアの醍醐味だと思います。



▲悠サロン(美山町)にて近所の危険箇所を確認している様子



▲平成25年台風18号による南丹市内の被害の様子。南丹市内外から多くの災害ボランティアが駆けつけました。

南丹市の防災について考える

平成はさまざまな災害が起こりました。特に南丹市では、平成25年に発生した台風18号により、家屋の浸水など多くの被害が出ました。頻発する大災害をきっかけに、南丹市では自主防災の取り組みが進み始めています。行政区の中に防災委員会を設置したり、サロンの中で防災について話し合いをするなど、地域での防災意識が高まっています。

Interview



「災害は忘れた頃にやってくる」と昔はよく言いましたが、今は「災害はいつ起こるかわからない」状況です。現在私たちは自主的に防災組織を立ち上げ、もしもの時に地域の住民同士で安否確認ができるような仕組みを考えたり、実際に近所を歩いて危険な箇所がないか点検するようにしています。

南丹市の未来を担う世代への福祉教育活動

南丹市に住む誰もが安心して、つながりながら住み続けられるまちづくりを進める中で、これからの南丹市の未来を担う子どもたちへの福祉教育も長年続けられてきました。南丹市内の小・中学校をはじめ、南丹市社協、南丹市役所、当事者団体、地域の方などと連携しながら、今後も継続していく予定です。



▲地域にお住まいの方にも講師を務めていただきました。

Interview



1年間を通して社協の皆様にご協力いただき、福祉に関する授業を実施することができました。どの内容も、子どもたち一人ひとりが興味や関心をもって取り組むことができたと実感しています。特に、今年度は本校で初めて「募金箱づくり」に取り組むことができたことは大きな成果でした。自分たちの住むまちに、自分たちがつくった募金箱が設置されるということは、子どもたちにとってとてもいい経験となりました。社会の一員として、福祉に関わる活動に参加できた素晴らしい取り組みでした。



▲園部第二小学校の4年生は、1年をかけて福祉について学習し、その成果を互いに発表し合いました。



「福祉」とは「ふだんの くらしを しあわせに」することなんだと言ふことが分かりました。みんなが幸せになるために、まわりに困っている人がいたら勇気を出して声をかけていきたいと思います。



地域住民と一緒に「南丹市のこれから」を考える

南丹市には、地域にお住まいの皆さんによる支え合いがたくさんあります。「制度から生まれた支え合い」もあれば、「当たり前すぎて意識されていない自然な支え合い」もあります。これからの南丹市を考えていく中で、そうしたさまざまな支え合い(地域資源)を発見し、地域で活用していくことが重要となります。そこで今年度、南丹市社協では地域の皆さんと一緒に「地域たすけあい会議」を発足し、話し合いを始めています。この会議は南丹市4町に1カ所ずつ設けられています。

地域たすけあい会議って?

メンバーはさまざま!

民生児童委員やふれあい委員をはじめ、自治会、振興会、NPO法人、学校などさまざまな団体から参加いただいています。

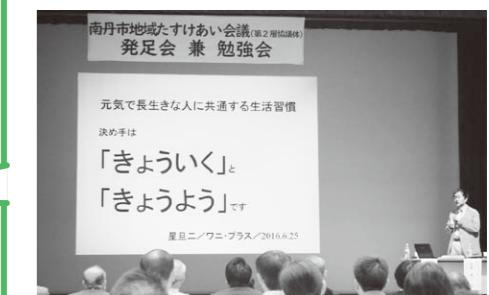


地域の宝物探しを!

「地域にないものや困っていること(地域の課題)」について話すだけではなく、「地域にあるもの、地域でできていること(地域の宝物)」について話しながら、地域づくりを進めています。

発足式&勉強会が開催されました

平成30年11月24日、南丹市地域たすけあい会議の発足会兼勉強会が開催されました。池田昌弘氏(全国コミュニティライフサポートセンター理事長)と高橋誠一氏(東北福祉大学教授)を講師に迎え、地域の支え合いについて、全国の先進事例を交えながら講義いただきました。



「地域共生社会」の実現を

「地域共生社会」という言葉を皆さんご存知でしょうか?「地域共生社会」とは「誰もが住み慣れた地域で、生きがいをもって暮らし、共に支え合う社会」です。

南丹市には高齢の方、障がいのある方、子どもなど、さまざまな人が一緒に暮らしています。南丹市に住む誰もが生き生きと暮らすためには、地域での支え合いが必要不可欠になります。

地域共生社会の実現に向けて南丹市社協は、地域にお住まいの方や、各関係機関と共に南丹市の地域福祉を推進していきます。



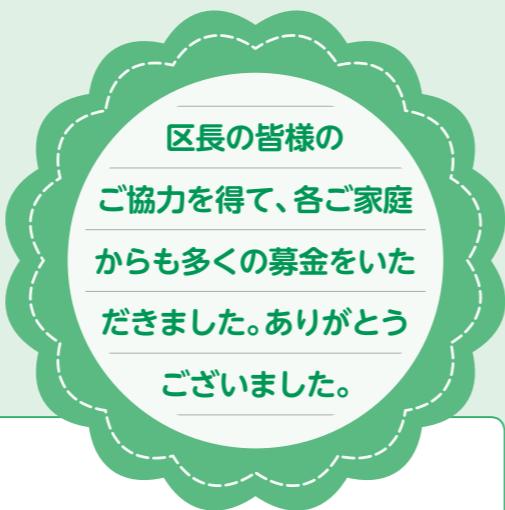
平成30年4月、第3期南丹市地域福祉計画・地域福祉活動計画が施行されました。これからの南丹市の福祉をどう進めていくのかが記載されています。詳しくは南丹市役所または南丹市社協ホームページをご覧ください。

じぶんの町を良くするしくみ

赤い羽根共同募金は
地域福祉やボランティア活動を
応援しています。



赤い羽根募金(一般募金)
4,316,204円
歳末たすけあい募金
3,535,841円
(2月1日現在 募金額)



共同募金運動にご協力いただきました。

(順不同・敬称略)

法人募金

(株)共立工務店、津多屋、十倉計治郎商店、(有)いちたに、(有)いなふ、男前豆腐店(株)、二九精密機械工業(株)ハ木工場、仙太郎(株)、(株)マルゼン胡麻サービスステーション、吉田モータース、日吉ふるさと(株)、(株)あしだ、日吉町森林組合、クラウンヒルズ京都ゴルフ俱楽部、宇治電器工業(株)美山工場、美山化成(株)

大口個人募金

倉内喜久雄、匿名2名

募金箱の設置等

園部高等学校、農芸高等学校、園部中学校、八木中学校、殿田中学校、美山中学校、桜が丘中学校・園部小学校分教室、園部小学校、園部第二小学校、八木東小学校、八木西小学校、殿田小学校、胡麻



▲みんなで作った募金箱が、南丹市内の事業所で募金集めに活躍しました。



園部第二小学校四年生の福祉教育で、募金箱を作成いただきました。



30年度

赤い羽根募金(一般募金)助成状況

- ◆じぶんの町を良くする活動助成 19団体
- ◆当事者団体活動助成 9団体
- ◆福祉まつり等住民イベント 1団体
- ◆ボランティア活動助成事業 75団体
- ◆サロン活動助成事業 95サロン
- ◆生活困窮者自立相談支援事業 1団体

助成合計額(2月1日現在)

3,445,317円

30年度

歳末助け合い募金助成状況

- ◆生活困窮者等激励金助成 136人
- ◆障がい児・者施設通所者激励金 296人
- ◆障がい児・者施設激励金 18施設
- ◆年末年始地域交流事業 3団体
- ◆サロン活動歳末助成事業 113サロン
- ◆歳末たすけあい見守り訪問事業 3,493人

助成合計額(2月1日現在)

3,706,540円

助成団体からありがとうの声が届いています



RUNとも京都2018南丹市

認知症の人やその家族、地域の人が1本のタスキをつなぐことで、誰もが地域で伴に暮らす大切な隣人であることを感じるための全国的な活動です。タスキは長野県から南丹市、綾部市へとつながりました。今年初めての開催でしたが、皆様のあたたかい応援のおかげで、無事に終えることができました。認知症になっても安心して暮らせる南丹市となるよう取り組んでいきます。



小桜町区自治会世代間交流事業

3世代にわたる世代間交流の機会として、ミニSLや新幹線乗車イベントを行うとともに、近年頻繁に発生する災害に対応した防災訓練を実施しました。多くの方に参加いただき盛大に取り組むことができました。厚くお礼申し上げます。

Interview

命を守る、あんしん あんぜんを守る ～防火訪問で地域の見守りを～



ハ木町南分団長の水口さん（右）と
副分団長の波部さん（左）

ハ木町南地区では、消防団が中心となり民生児童委員、ふれあい委員と連携して、65歳以上のひとり暮らしの家への防火訪問活動を行っています。10年以上続くこの活動について、お話を伺いました。

きっかけは阪神・淡路大震災

1月27日、この日も防火訪問活動が始まりました。消防団員と民生児童委員（またはふれあい委員）が二人一組となり、地図を片手にひとり暮らしの高齢者宅を訪問します。訪問先では、電気ケーブルの配線チェックなどに加え、「体調はいかがですか」など見守り活動も同時に行います。ハ木町南分団長の水口さんは「きっかけは阪神・淡路大震災です。震災後、神戸の消防団が防火訪問を始めた事を知り、ハ木町でも始めてみようということになりました」と話します。

「何もなくてよかった」の一言のために

訪問先では「定期的に来ていただくので安心です」「ありがとうございます」との声が数多く聞かれました。ハ木町南副分団長の波部さんは「昔からハ木町は水害の町です。いつ災害が起きてもおかしくない中で、この活動は平常時からの繋がりを強化する為にも行っています」と話します。災害が起きたとき、「助けて」と言い合うことができ、最後には「何もなくてよかったね」と安心できる地域。そんな地域になるために、今日もお二人は汗を流しています。



防火訪問の様子



今号の表紙

子育て支援ボランティア「すくすくやぎっこ」と南丹市食生活改善推進委員協議会ハ木支部による料理教室が開催されました。親子で料理をすることで、「食」の大切さを学びました。

善意のご寄付ありがとうございました

平成30年11月1日～
平成31年2月28日受付分

福田 義	様 50,000円	亡妻の供養に
今井 斎	様 100,000円	亡祖母の供養に
竹井 博	様 100,000円	福祉のために
内藤 卓磨	様 50,000円	亡父の供養に
株式会社 親愛 代表取締役 安達 卓志	様 50,000円	福祉のために
笠浪 恒正	様 100,000円	福祉のために
吉田 陽子	様 10,000円	福祉のために
案山子の会	様 10,000円	福祉のために
今西 順子	様 50,000円	福祉のために
中川 喜久子	様 100,000円	福祉のために
中川 喜久子	様 10,000円	福祉のために
塩貝 直	様 100,000円	亡父の供養に
中西 孝久	様 50,000円	福祉のために
てづくりフェスタ in SONOBE出店参加者一同	様 10,200円	福祉のために

廣瀬 強	様 30,000円	福祉のために
松田 尚郎	様 50,000円	亡父の供養に
ええるの家 着物に親しむ会	様 18,000円	つくし園のために
中島 貴広	様 100,000円	亡父の供養に
宇野 昭彦	様 50,000円	亡母の供養に
匿名寄付	22件 計 478,000円	
苅屋 容子	様 フェイスタオル 多数	
近畿地方郵便局長夫人 会 やまゆりの会 南丹・京丹波支部	様 車手60双・ 収納かご	福祉のために
谷内 博	様 もち米	各事業所に
中村 義博	様 ポータブル トイレ	
匿名預託	1件	

